

神戸・新長田の賑わい創出と「まつり」

report

「鉄人」と「三国志」による地域活性化／KOBЕ鉄人PROJECT



岡田誠司さん。神戸市長田区生まれ。神戸・新長田でライブホルの企画・運営業務に携わり、震災後のまちづくりに関わる。NPO法人「KOBЕ鉄人PROJECT」にプロデューサーとして参加

JR新長田駅南地区の約1キロ四方には、お好み焼きや「そばめし」を提供する「粉もん」の店が70～80軒あり、その集積度は全国一という。昨年10月行われた「鉄板こなもん祭」では新キャラクター「鉄板コテ之介」がPRソングを披露した



新長田のオリジナル三国志キャラクター「孔明わん」と「関うーたん」(右)



平成17年、地元の沖繩物産専門店の開店記念イベントとして始まった「琉球祭」。鉄人広場では琉球バンドとともに見物人も一緒に踊るなど、年々活気を帯びている。これらイベントはプロの領域以外は、全て地元ボランティアの協力で運営されている

「過性のイベントから
テーマ性を持った「まつり」へ

全長18mの「鉄人28号」がそびえ立つ神戸・新長田の「鉄人広場」。神戸市出身の漫画家、横山光輝氏の代表作にちなんで平成21年9月に製作されたこの巨大モニュメントは、阪神・淡路大震災後のまちの復興と活力のシンボルだ。この鉄人と横山氏の漫画「三国志」をモチーフに新長田では、地元のNPO法人や住民、商店街、行政とが協働してまちの賑わいづくりに取り組んできた。

「計画段階では地元でも『そんなん作ってどうするねん』という声が多かったのですが、完成してがらりと変わりましたね」と話すのは、地元商店街を中心に平成18年に結成されたNPO法人「KOBЕ鉄人PROJECT」プロデューサーの岡田誠司さん。

震災後はハード面がハイピッチで再建された。続いて活気あるまちを取り戻そうと、地元有志が中心になって年間100回を超えるイベントを実施したが、いずれも一過性で終わっていた。そんな頃に出会ったのが「鉄人」と「三国志」だった。「まずは鉄人のモニュメントを作ろうと突っ走りました。しかし作ってしまえばそれまで。継続性という点で、長く歴史エンターテイメントとして親しまれてきた『三国志』をテーマにした行事の企画運営に比重を置くことにしました」

地元商店街には三国志の武将たちの等身大石像や立て看板、関連施設が整備され、毎週日曜日にはスタンプラリーを開催。さらにまちぐる



KOBE鉄人PROJECTが自治体の支援のもと、平成19年よりJR新長田駅南地区の商店街一帯で毎年開催している「三国志祭」。そのハイライトの一つが地元の小学生による「巨大灯ろう」パレード

「特定非営利活動法人
KOBE鉄人PROJECT」
問い合わせ先

〒653-0041
神戸市長田区久保町6丁目1-1
アスタクにづか4番館4F
TEL: 078-646-3028
<http://www.kobe-tetsujin.com/>



「三国志なりきり隊」を結成した、果物店店主・嶋崎裕三さん（中央）。衣装は中国に自ら出向いて購入。「商店街活性化のためなら何でもします」と意気込む

◎光プロ/KOBE鉄人PROJECT 2012

新長田・六間道商店街の店主が結成した「三国志なりきり隊」。三国志の武将や女官に扮して接客や案内をし、各種イベントにも出演



みで盛り上がるお祭りイベントとして平成19年から「三国志祭」を始めた。当初は来場者千人程度の規模だったが回を重ねるごとに拡大。昨年は3万5千人の来場者が訪れた。

「賑わいを継続させるにはテーマ性が不可欠。そのキーワードが『まつり』でした。そこで『〇〇祭』と銘打った定期イベントを次々立ち上げました」

その一つ「琉球祭」では、鉄人広場一面に沖縄料理の屋台が並び、民謡やライブに合わせて見物人が一緒に踊り出し、「道ジュネー（エイサーパレード）」がまち中を賑やかに練り歩く。三国志祭と並び、新長田の新しい秋の風物詩になりつつある。

「もともと新長田は神戸で一、二を競う繁華街昔に戻ったみたいや、とお年寄りの方々も喜んでくれます」

こうした取り組みの結果、再開発ビルへの入居率も上がり、近隣のマンションには若いファミリー層が増え、子どもたちの元気な姿も目立ってきた。

「でも鉄人や三国志だけじゃまだ足りません。地元のお好み焼き店やコスプレ、アイドルなどのオタク系カルチャーなど、いろんな魅力に触れてもらえる回遊型のまちにするため、切り口をもっと増やしていくつもりです」

何よりも、地元住民や商店街の人々がまちづくりを楽しむ余裕が出てきたことが収穫、という岡田さん。次のステップに向けて走り続けることが重要だと考えている。

(文責・CEL編集室)

CEL